

日本科学者会議 連続 Web シンポジウム

コロナウイルス禍が問う現代市民社会

第3回 コロナ禍における学校教育

- 2020年10月31日(土) 13:30~15:30
- 参加費・無料 (Web 会議ソフト Zoom によるオンライン開催)
- 主催: 日本科学者会議

■ 報告1: 石垣雅也氏 (公立小学校教員・滋賀)

「コロナ禍の学校における教育課程づくりと授業づくり」

■ 報告2: 葛巻真希雄氏 (私立高校教員・東京)

「コロナ禍で見えてきた高校教育の現実と課題」

■ 指定発言: 荒井文昭 (東京都立大学)、宮下与兵衛 (東京都立大学)

■ 司 会: 河合隆平 (東京都立大学)、杉田真衣 (東京都立大学)

<開催趣旨>

新型コロナウイルス感染拡大という非常事態に直面し、社会のあらゆるシステムが揺さぶられるなか、学校教育も根底から問い直しを迫られています。コロナ禍における子ども・若者の教育の危機は、教育条件の貧困、教育の自由の剥奪、家庭の経済格差が教育格差につながるリスクなど、新自由主義による教育破壊が帰結した困難をいっそう顕在化させました。

突然の、そして長期の一斉臨時休校を経て再開された学校では、様々な制約の下にあって子ども・若者と向き合う教育実践が模索されています。その一方、「9月入学・始業」「少人数学級」「教育のICT化」など、様々な要求や思惑を背景にコロナ後の教育改革プランが打ち出されています。

従来の教育の前提がリアリティを喪失し、以前の学校制度に回帰することができない状況において、コロナ禍、そしてコロナ後の社会を生きる主体形成はどうあるべきか、それを担う学校の社会基盤をいかに構築するのか、これらの課題に対して教育学はいかなる思考や発信が可能なのか。今回は2人の教員をお迎えし、小学校と高等学校の現場が直面する課題をそれぞれお話しいただきながら、コロナ禍の学校教育について考えていきます。

■ 参加申込: [kagakushakaigi@gmail.com](mailto:kagakushakaigi@gmail.com) 宛に

件名「シンポ申込」と記し、本文にお名前・肩書 (あれば)

を記して送信してください。